

地元企業と地域をつなぐ 「トウダイ」を目指して

「地域のあるべき姿」を指し示す存在になろう！を合い言葉に、2014年にNPO法人として新たなスタートを切った「ハマのトウダイ」。地域経済を担う中小企業と手を取り合い、地域が抱える課題や社会問題を解決していくことを目指して活動しています。

昨年10月27日、ロイヤルホールヨコハマで開催した設立記念レセプションには100名以上の皆様に参加いただき、多くの方から賛同の声をいただきました。設立から約一年、私たちは既に様々な活動を行い、現在約60名の法人、個人会員の皆さまにご支援いただいています。また現在も新たなプロジェクトが進行中。詳細はこの新聞中面をご覧ください。

私どもの活動は地域の皆様、中小企業の皆様からのご賛同、ご協力によって成り立っています。今後とも「ハマのトウダイ」へのご支援、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



100名以上の方にご参加いただいた「ハマのトウダイ」設立記念レセプション。横浜市経済局長・牧野孝一様にて記念講演していただきました。



↑ contents...

- レセプション 1
- スポーツ GOMI 拾い 2
- 放課後キッズクラブ 3
- Tシャツ・会員一覧 4
- パークキャラバン 5-6
- 神奈川大学特別講義 7-8
- インターン生紹介 8



ハマのトウダイ新聞 第1号
2015.09.01 発行

発行 NPO 法人 ハマのトウダイ

〒231-0032横浜市中央区不老町2-8-14-3F

TEL:045-227-7617/FAX:045-227-7618

編集 ハマのトウダイ編集部

MAIL:info@hamanotoudai.com

URL:www.hamanotoudai.com

ゴミ拾いがスポーツに！

規定のルールに従って制限時間内にゴミを拾い集め、内容と量によって得たポイントで勝敗を決めるスポーツ感覚のゴミ拾いイベント「第一回スポーツゴミ拾いINわだまち」を8月1日に開催しました。このイベントはハマのトウダイとして活動目標にしている商店街活性化事業のひとつであり、和田町商店街のチーム和田街と共催、またNPO法人日本スポーツゴミ拾い連盟の協力で行われました。

「スポーツゴミ拾い」は、清掃作業にスポー

ツの要素を取り入れた新たな形の地域奉仕活動として、2008年にスタート。行政や企業、教育機関が参加する地域イベントとして定着しつつあり、昨年未までに約300大会が開催されました。

単に大量のゴミを集めればいいのではなく、地域の特性に合わせて細かくポイントを規定しているのが特徴。当日は17チーム80名とスタッフ10名が参加し、拾い集めたゴミの総重量はなんと41・44kg。優勝は温浴施設「満天の湯」のメンバーチームMORIYAMA、準

優勝は神奈川トヨタ保土ケ谷店と、地元企業が上位を占めました。区内で初の開催であり、後援の菅井忠彦保土ケ谷区長自ら区長賞の表彰を行いました。参加者には商店街16店舗の食事券を提供し、地元の名店を知る切っ掛けにもなりました。

ゴミ拾いをスポーツにすることで地域の環境美化に対する意識が高まり、さらに普段なら見逃してしまっている街の隅々まで自然と足を運ぶきっかけにもなります。イベントを終えて商店街、町内会、保土ケ谷区からは、さっそく次回の開催を願う声が上がっています！



子ども達の放課後を変える

子どもたちにとって、年齢の異なる友達と遊ぶ機会があることは、非常に大切なことです。そして、年齢の異なる友達と、遊び方などの違いを知ること、また遊びを通して仲間たちとのようにかかわっていけばよいかを体験することなどは、成長するうえで欠くことのできない基礎的な体験といえるでしょう。しかし、最近では少子化や核家族化の進展などにより、年齢の異なる子どもたちの「遊び」の機会が少なくなっています。そのうえ、都市化が進み安全な「遊

場」も不足しています。

都岡小学校放課後キッ

ズクラブは、すべての子ども達を対象にして、小学校施設を活用し「遊びの場」と「生活の場」を兼ね備えた、安全で快適な放課後の居場所を提供し、以下の育成理念・育成方針を掲げております。

〔育成理念〕

家庭や企業や地域が力をあわせ、心身ともに健やかな子どもを育む

〔育成方針〕

1 子ども一人ひとりを大切にし、理解する
2 発達家庭に沿った生活や遊びを追求する

3 子どもの主体性を育てる環境を構成する

4 生きる力の基礎となる自己肯定感（自尊心）を養う

5 家庭及び地域における子育て支援の役割を担う子どもたちが安心して過ごせ、伸び伸びと成長できる場を提供する

6 将来地域企業に就職しなくなるような魅力的な仕事をしている企業とともに社会体験を行う

本事業の御共感頂きました企業の方々に、子どもが楽しめるプログラムのご提案を頂いたり、共同事業の開催をしております。是非ご興味のある方は、一緒に事業を構築

してみませんか？ 皆様のごからの御支援とご協力をお願い致します。



現在、絶賛作成中の“ハマのトウダイ Tシャツ”

柔らかなコットン生地のTシャツに

ロゴマークと「HM N TDI」の速記アルファベット表記デザイン。

様々なカラーリングとスタンダードネック、Vネックを用意しております。

販売価格、購入方法は未定ですが、詳細が判り次第、

HP や Facebook でお知らせいたします。

お楽しみに！



ハマのトウダイ会員一覧 (2015年8月15日現在)

正会員 (団体)

アーバンコーポレーション(株)	アールエー (株)	(株)アクティブコレクション
(株) アップテラス	(株) アドホーム	(有) 飯盛商店
石井造園 (株)	(株) 伊藤商会	(有) 田舎家
(有) ウィステリアグリーン	エクスプレーン	エムサポート
扇矢工事 (株)	(株) 大川印刷	(株) オンリーワン・21
岳南建興 (株)	(有) グローバルネット	(株) 栗原工務店
(株) クワハラ	幸和建設工業 (株)	(有) 駒場総業
SURFCAPP inc.	(株) ジョビア	昭和建設 (株)
(株) 白井組	(株) 杉山製作所	住マートホーム (株)
(株) セレクト One	(株) 泰山園	太陽エナジー販売 (株)
武吉宏真税理士事務所	(株) 谷川商店	(株) ディーエムサービス
(社)日本スポーツ GOMI 拾い連盟	(株) ヒーリングの森	宮澤建設 (株)
(特非)横浜コミュニティデザイン・ラボ		横浜食鳥鶏卵 (株)
(株) 横浜レンタル	司法書士法人リーガルサービス	わち人事労務事務所

正会員 (個人)

大久保裕章	小川名剛彦	掛川幸子	小勝太郎	
斉藤伸一	白濱 敦	田端邦彦	仲居英明	濱島成士郎
本多初穂	本多竜太	前田信哉	山田 悟	渡辺紀行

サポート会員

木村 将	高久正信	松本安生	山田浩和	若林 英則
------	------	------	------	-------

7月4～5日、JR保土ヶ谷駅前にある小さな公園「保土ヶ谷駅前公園」



公園で起きた小さな革命

が、一面グリーンで覆われました。「ハマのトウダイ」街区公園活用プロ

ジェクトの第一弾

として開催した「ハマのパークキャラバン」です。普段

は砂利の公園敷地全面に人工芝を敷き詰め、子ども達を裸足で遊ばせません。アウトドア用

品メーカー「スノーピーク」協力のもと、テント宿泊体験や地元野菜を使ったカレーの炊き出しも行いました。

事業の様子はヨコハマ経済新聞、神奈川新聞などのメディアで紹介いただきました。以下は「公共不動産」に掲載いただいたレポートです。

*

「保土ヶ谷の一角で、小さく、楽しい革命が起きていました。その名もパークキャラバン。公園でキャンピングしよう！という1泊2日のイベントです。

「憩いの場」の代名詞のような「公園」という

空間ですが、最近はいっしょに遊ぶ禁止、ボール遊び禁止、飲食禁止、砂場にフェンスと、不自由な空間になっている。公園を本来のもっと開かれた楽しい空間として奪還しようと試みたのが、この企画。

国交省の分類によれば、公園って12種類もあるんですけど。例えば横浜市には、いわゆる公園が約2600個あり、その大半2400個が、最も小規模な「街区公園」。横浜市では、その街区公園毎に「愛護会」なる地元組織を設け、管理を任せる仕組みのだけけれど、1割程度は愛護会不在なんだそうです。へ

今回のイベントを主催したNPOハマのトウダイさんは、この愛護会不在だった保土ヶ谷公園に、新たに愛護会を設立、日頃から清掃活動や商店街とのコラボ企画等を行っていきます。地元住民ではなく、NPOが主体の愛護会は、もちろん前代未聞。しかし、至極真っ当な、正攻法での公園活用ですよね。地道さに脱帽。

人工芝を並べ、その上にスノーピーク提供のテント。地元野菜でカレーをつくったり、地元大学生とのコラボで仮設図書館をひらいたり。遊具も設置は許可が大変だけど、仮設ならOKなので、DIYでつくって持ち帰れる遊具づくりワークショップも開催。夜はプロジェクトで映画上映。最低限のものを揃えたら、あとは地元の資源をミックスするスタイル。拡がる可能性に身の毛がよだちました。

面白いのは、キャンプの横で、いつも新聞読んだりタバコ吸ってるおっちゃん、フツーにベンチに座ってる風景。日常のまちの中に、キャンプという異分子が混じり込んでる感じ。いいな。

ひとたびパイオニア事例ができれば、横展開も

スムーズ。既に各所から相談もあり、10月にはみなどみらいで次回パークキャラバンを実施予定だとか。公園の再公共空間化革命、始動です！」



(左)地元の「宿場そば」の協力のもと、地元産野菜を使った新しい遊具を発売し、作って遊ぶプロジェクト。 (右)横浜国立大学の学生たちが製作した移動式屋台「ほどわごん」。夜は移動映画館に！



ハタラクこと、公共課題… 学生たちの価値観に変化



地域青年と中小企業をつなぐ事業としてスタートした「神奈川大学人間科学部特別講義」。このプログラムは、地元横浜の中小企業の存在を大学生に知ってもらい、彼らに多くの選択肢がある事

を認識してもらおう、という趣旨で「ハマのトウダイ」が実施しているものです。

ハタラクという価値観に少しでも変化を促し、社会の抱える問題をよりジブンゴト化してもら



のが本事業の目的。昨年は横浜で起業されている経営者の方々に講演いただきました。本年は、講義↓グループワーク↓発表という形式で、ハマのトウダイが取り組んでいる課題である「地元企業への就職」に加え、「公共課題のジブンゴト化」への解決策を大学生に提案してもらおうというスタイルで、全15回の講義を



働くことや公共について多角的に考えた神奈川大学の講義。オンデザインの西田 司氏やノガンの浅野宏治氏にも講演いただきました。

実施しました。今回、学生たちに提案いただいた中から、「K U K U 7 会」という中小企業と学生のオフ会、「モデルパーク」という公園をモデルルーム化するという企画については今後、ハマのトウダイで実現させるべく、提案してくれた大学生と新たなプロジェクトとして始動しました。へ



特別講義を通して学生たちから「KUKU7月31日催し元企業が語る」と題して、第一重慶学ばらんとて、お茶会を兼ねたお楽しみ会を行いました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



▼なお、本年は神奈川県立横浜国立大学様、横浜国立大学様、横浜商科大学様にもお声掛けいただき、講義の機会をいただき、

くことが出来ました。来期はより多くの横浜市内の大学にて本プログラムが実施される事になると思いますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。

【インターン生紹介!】

横浜市立大学 影山教授よりのご紹介で、本年6月より当法人としてインターン生をお預かりすることになりました。彼女の専攻は CSR 活動の研究であり、主に中小企業の取組みを研究しているとのこと。インターン中は、当法人の役員会議に出席いただき、各種事業への参加や、

協賛企業の課題把握のためのアンケート作成、取材、レポート作成を担当してもらう予定です。ハマのトウダイ運営メンバーともども、よろしくお願いいたします!



横浜市立大学
国際総合科学部 国際総合科学科
都市学系 影山ゼミ 2年
片山 東華さん